

Application for Participation

Associated Schools Project (ASP) for Promoting International Education

表浜プロジェクト

～表浜の環境を考え、郷土を愛する心の育成～

Outline of the way the Project(s) will be implemented in the institution

(please use extra sheets if necessary)

Description of the Project (プロジェクトの概説)

表浜の夜明けは荘厳である。水平線から太陽が昇ると共に、生命の営みが始まる。表浜に根を張るコウボウムギやハマヒルガオの群れ、水鳥たちの鳴き声、アカウミガメが産卵し海へ帰っていった軌跡をカニたちが渡っている。そのそばで釣り人たちが竿をたれ、サーファーが波乗りを楽しんでいる。まさに、表浜は、命を育み命の行き交う場所である。このような豊かな表浜も、近年は環境破壊が進み、多くの人々が保全に取り組まなければならない状況になっている。

五並中のすぐ南に続いている表浜で、生徒たちは様々な活動をしてきた。24回に渡り行われた連風揚げ、開校記念体育大会など、表浜が舞台となって多くの学習活動が行われた。このように五並中と表浜とは、切っても切れない関係がある。特にギネス記録を作った連風揚げでは、表浜は大きな舞台となった。2万枚を越える風を揚げる場であり、成果を確かめる場であり、喜びを分かち合う場でもあった。

しかし、平成20年度に行った連風揚げの際、糸が切れ2kmにも及ぶ連風が240km先の静岡県賀茂郡松崎町まで飛ばされるという事故が発生した。この事故によって、2008年をもって連風揚げを中止することになった。

表浜は学校から地理的に近くて、表浜にかかわる人々が地元が多く、表浜に特別な思いをもっている生徒は多い。多様な生命を育む場所であり、生命への思いを育てる場所にこれからもかかわってほしいことから、生徒の心情を中心に据えた活動として、2009年より「表浜プロジェクト」を新たに立ち上げ活動を始めた。地域に密着した学習を系統的に行うとともに、持続可能な発展のための教育(ESD)を推進することを通して「表浜の環境を考え、郷土を愛する心の育成」を目指して取り組むこととした。

Objectives of the Project (プロジェクトの目的)

本校では、ESDに「環境」という観点から取り組む。自分たちが住む町の生活や文化や人のつながりについての学習を深め、持続可能な社会づくりの担い手を育みたい。

【表浜プロジェクトの目的】

- ・表浜での自然体験や社会体験などの教育活動を通して、今までお世話になってきた表浜に感謝の気持ちを持ち、表浜の環境の問題を考え、解決していこうとする力を身につける。
- ・表浜について調べたことやわかったことをいろいろな形でまとめ、学校や地域に発信して、わかったことを伝えていく力を身につける。
- ・表浜の生き物や地形などを知り、自分たちの地域である表浜に関する理解を深める。

【身につけさせたい力】

- ①課題設定能力

- ・学年のテーマに沿った各自の学習課題を具体的に考え、設定できる。
- ・仲間や教師の助言を参考にしながら、自己の設定した課題を発展させたり、修正したりできる。

②問題解決能力

- ・本やインターネットを利用し、課題に沿った情報を集め、整理することができる。
- ・さまざまな情報の選択や相互の話し合いを通して、自己の課題に対する考えを深め、解決することができる。

③コミュニケーション能力

- ・調べた内容を他の人にわかりやすく説明することができる。
- ・学級やグループでの話し合いに参加し、相手の意見を聞いたり、自分の意見を述べたりできる。

④実践行動力

- ・個人やグループで立てた計画に基づき、目的を達成できるように考えながら行動できる。
- ・礼儀正しい行動ができ、マナーを守って行動ができるようにする

表浜プロジェクト全体計画

【学校の特徴】

- ・校区に表浜があり、教育活動を行っている。
- ・地域との連携を図っている。
(表浜ネットワーク、海岸清掃)

【生徒の実態】

- ・比較的落ち着いて、生活できている。
- ・素直で明るい生徒が多い。
- ・生活経験不足が多い。
- ・計画的、自主的に進めることが苦手な生徒が多い。
- ・人とのコミュニケーションが苦手な生徒が多い。

【教師の願い】

- ・自主的に学ぼうとする意欲を育てる。
- ・主体性や創造性の育成を図る。
- ・基本的な生活習慣を身につける。
- ・学んだことをまとめ、表現する力を身につける。

【目標】

地域と生徒の実態を正しく把握し、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな生徒の育成を目指す。

【教育目標】

豊かな心の生徒

【めざす生徒像】

- ・深く考え、自ら学ぶ生徒
- ・思いやりの心を持ち、助け合う生徒
- ・気力を持って、やり遂げる生徒

【合い言葉の実践】

「い」 いつもにこにこ明るい
あいさつ

「な」 何でも挑戦 チャレンジ
精神

「み」 みんなで力を合わせ
きれいな学校

【総合的な学習の時間の目標】

- ・体験的な学習や問題解決的な学習を行うことにより学び方を身につけ、生き方を高めるとともに、各教科と相互に関連づけ、総合的に力を高めることができるようにする。
- ・全体発表の場を文化祭に設け、学年ごと発表することにより、表現力・発信できる能力を養う。

【特別活動の目標】

- ・望ましい集団生活を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員として、よりよい生活を築いていこうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、人間としての生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う。

Execution (プロジェクトの実施)

本中学校では、ESDの目的を「環境」の観点から、自分たちが住む町の自然や産業、文化や人のつながりについての学習を深める。それぞれの学習を、郷土を愛する持続可能な社会づくりの担い手を育てるための資質や能力の基礎的な部分を育てる教育と位置づけている。

表浜プロジェクト 【ESDカレンダー】

	1 年	2 年	3 年
4月	開校記念体育大会（第1回海岸清掃）		
	【表浜の現状を知ろう】 ・砂浜散策	【表浜を知ろう】 ・ビーチコーミング	
5月	野外活動	・植物の様子（スケッチ、分布の様子） ・どうやったら植物は砂浜で育つのかな（栽培）	【施設を増やす計画を立てよう】 ・どんな施設をつくったらよいか考える。
	【海岸保全活動を知ろう】 ・表浜を歩く・中田島砂丘見学 ・表浜ネットワーク講演		
6月	第2回海岸清掃		
	【海岸保全活動をしよう】 堆砂垣づくり at 五並中	【表浜の現状を地域に伝えよう】 ・表浜図鑑の作成（植物、生物、漂流物）	【カメの卵を孵化させよう】 砂の温度の測定
7月	【今、五並の環境は大丈夫か】 ・地域の環境調べ	・砂浜に育つ植物について ・看板の製作、設置 ・消波ブロック撤去作業について 行政へインタビュー	【設計した施設をつくろう】 【放流しよう】
8月	校区海岸清掃		
	・太陽光発電の普及率調べ ・農家の環境への意識は？ ・産業廃棄物 ・風力発電 ・資源化センター 見学 (発表の準備)	【新しいカメをもらって、育てよう】 (発表の準備)	・自分たちで考えた施設を製作する (発表の準備)
9月			
10月	堆砂垣をつくろう（1年主催）		
11月	文化祭（成果の発表・講演会）		
	【学校で取り組めるエコ活動を考えよう】		
12月	【家庭で取り組めるエコ活動の進め方】	堆砂垣の観察・植物の観察	
1月	【家庭でのエコ活動の実践と事例をまとめよう】	・水替え ・えさづくり ・えさやり ・甲長と体重の測定・フィルターの掃除・比重の測定 ・ろ過槽の水位の調節 ・気温、水温の測定 など	
2月			
3月			



カメの飼育



海岸清掃



カメ放流会



開校記念体育大会



文化祭の発表



堆砂垣の設置

Type of materials to be used (使用する教材)

- ・「表浜の自然」豊橋市自然史博物館 2011
- ・「豊橋の自然発見」豊橋市 2000
- ・「とよはし アカウミガメのあしあと」豊橋市環境部環境保全課 2013

Is there any type of evaluation to examine the effects of the project on students' comprehension and attitudes? (プロジェクトに対する生徒の理解と姿勢の評価方法)

生徒の理解と姿勢の評価は、以下のように行う。

- ・生徒の様々な活動への取り組みの成果を事後のまとめや感想、発表から把握する。
- ・学習活動のまとめとして成果を、授業や行事で発表し、意欲や態度を観察し評価する。

上記の評価とともに、さらに下記のことを実施して、ESD活動のさらなる充実を図る。

- ・行事後の「アンケート」や「教育活動アンケート」により、「地域学習の有効性」「地域への穂孤立愛着についての意識変化」等の項目について尋ねるアンケートを保護者、生徒、教職員を対象に実施する。また、その結果を学校評議員に伝え、アドバイスをいただく機会を設ける。
- ・生徒の実態や地域の特色にそったカリキュラムになるように、今年度の実践を基に学年別年間計画を見直し地域学習に関する具体的な活動内容の改善を図る。

On behalf of my institution, I apply for participation in the UNESCO Associated Schools Project and give the assurance that this institution will make an active contribution to the Project, as outlined above, for a minimum period of two years. At the end of every year, I shall submit a report of the Project to the ASP National Co-ordinator of my country.

(本学校を代表して、ユネスコASPの参加申請をし、少なくとも2年間は上記概要にそってASPに貢献する活動を行うことを確約します。また、毎年ASPコーディネーター(※日本の場合は日本ユネスコ国内委員会)に活動のレポートを提出します。)